

就労訓練事業の受け入れ体制モデル事業所 取組事例紹介

事業所の概要

- 事業所名 社会福祉法人翔の会 特別養護老人ホームゆるり（茅ヶ崎市今宿）
- 事業概要 高齢者を対象とした施設入所、生活介護、短期入所等

対象者の情報

- 20代男性 ●高校中退後ひきこもり生活 ●家がごみ屋敷状態であり、それが普通という感覚
- 就労や他者との関わり方に不安感あり

訓練事業の概要

- 内容 清掃、調理補助 等
- 訓練日程 令和6年12月10日～継続中（令和7年6月時点） 週3日、各日9:00～13:00
- 受入体制 キーマン1名、主要職員1名、職員複数名
業務設定はキーマンと主要職員が、業務指導は主要職員が担当し、他の職員は訓練中のフォロー及び様子を主要職員に共有

就労訓練実施にあたっての工夫 等

●就労訓練実施の経緯

令和6年1月に対象者の母から法人に連絡があり、支援に繋がった。
令和6年3月から就労準備支援事業を利用しており、当初は予定通りの時間に事業実施場所に来れない、支援者の予想できない行動をする等の様子が見受けられた。
しかし、就労準備支援事業による昼食作りやお弁当販売を体験するうちに、ミスもなくなってきたため、就労訓練に移行した。

●具体的な内容

- ①衣類の片付け
外注している業者から個包装された各利用者の衣類が届き、それを各居室に収納する作業
- ②居室の清掃
居室に清掃員が入っているが細かな点(テレビや棚のホコリとり等)を担う
- ③食事前準備
テーブル拭き・ランチョンマット敷き・ご飯盛り付け・食材カット・配膳作業。
- ④洗い物
水回りに溜まる食器類等を洗い、乾燥にかけ、片付ける作業。
- ⑤洗濯
昼食後、ご利用者様が使用したエプロン・ランチョンマットを洗濯し干す作業。

●訓練継続、就労に向けた工夫

2ヶ月に1回、自立相談支援機関、事業所職員、対象者の3者で面談を実施し状況を共有すると共に、日常的な声掛けや見守りによる支援を行った。

●自立相談支援機関との連携

対象者の様子を小まめに確認に来ているほか、面談への同席も行っている。
また、対象者が地域とのつながりも作れるように、ボランティア活動への参加に向けた調整も行っている。

●成果及び今後の支援

訓練が2ヶ月経過したところで対象者と振り返りの面談を行ったところ、仕事にも慣れ、体力もついてきたため、日数を増やしたいとの意向あり。
段階的に業務の難易度や工賃を上げ、就労に至るまで支援を継続する。

就労訓練事業の受け入れ体制モデル事業所 取組事例紹介

就労訓練事業を活用した感想

『自分自身が変わることができると思った』

『就労し、最低限稼げるようになりたい』

対象者の声

- ・自分自身が変わることができると思い、就労訓練事業を実施することにした。
- ・訓練当初は事業所に行くだけでも筋肉痛になっていたが、段々と体力が付き、痛む日が無くなってきた。
- ・訓練を通じ、知り合いもできた。
- ・訓練を継続し、自信や体力、技術を身につけ、ゆくゆくは就労し、最低限稼げるようになりたい。

訓練事業所の声

- ・言われたことを素直に受け止める姿勢や、努力家な一面がある方であったため、訓練を通じた他者との交流や、役割を担うことによる自己承認の高まりが、自発性の芽生えや就労意欲の向上につながることを期待した。
- ・体力や技術的などころだけでなく、気持ちの面や、他者とのコミュニケーションがとれるようになる等、プラスの効果が出ている。
- ・今後も訓練を継続していく。時間はかかるかもしれないが、一般就労することができると思う。
- ・就労訓練事業は、経済的な意義もありつつ、対象者の自立を育む効果がある。

自立相談支援機関の声

- ・就労準備支援事業を安定的に実施しており、対象者からも前向きな発言を頂けたため、社会との関わりを増やすことや、収入を得る体験を積んでいただくため、就労訓練事業を適用。
- ・訓練を通じて体力面や生活環境の改善がされるとともに、よく笑うようになる等、良い効果が出ている。
- ・自力で得た収入を、自分が必要とすることに使う喜びを実感してもらえた。
- ・人との関わりが増えいきいきとしている。
- ・就労訓練事業は、対象者の経歴や特性への配慮がある中で、収入を得ながら自立に向けた準備ができる。

勤務中の様子

